

宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に 関する調査研究（１）

山 田 康 彦・林 田 勇 蔵
濱 田 芳 子・佐々木 昌 代

Survey and Research on Miyazaki Women's Junior College Interns in Kindergarten and Nursery Teaching（１）

Yasuhiko YAMADA, Yuzo HAYASHIDA,
Yoshiko HAMADA and Masayo SASAKI

I. はじめに

幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂に伴い、教育職員免許法並びに保母養成教育課程の改正が行なわれた。その中の幼稚園教員免許および保母資格のいずれも実習単位が1単位増となり、実習に関する事前および事後の指導の強化充実がはかられることになった。

このことから教員養成・保母養成において教育者・保育者の資質向上に関わって、実習指導の充実が今後の大きな課題になっていることがうかがわれる。

実習は、保育の対象に直接ふれながら大学で学んだすべての科目を基礎とし、それらを総合して実践し応用力を身につけるとともに、理論を実践に関連させて学習できる重要な科目である。また学生自身も、実習を通して子どもの人間形成に関わる喜びや使命感を自覚し、教育者・保育者への意志を高め強固にする契機となっている。

それゆえに、いかに学生にとってよりよい実習ができる環境を整えてやれるかが教員養成・保母養成校には求められているといえる。

さて本学では、保育科・初等教育科で幼稚園教諭二種免許状、保育科で保母資格が取得できる。免許・資格のための実習期間は、初等教育科は1年次の2月（幼稚園）、保育科では保育実習Ⅰが1年次の2月（保育所）と2年次の7～8月（他の福祉施設）、幼稚園教育実習が2年次の6月（幼稚園）、保育実習Ⅱが2年次の11月（保育所）となっている。なお本学では実習を重視する観点から保育実習Ⅱも必修にしている。

ところで、本学の教育・保育実習指導の現状をみたとき、いくつかの問題点が指摘される。たとえば、学生へのヒアリングでは、次のような点が出されていた。

- ①実習願の提出時期（幼稚園は1年次5月下旬、保育所は1年次6月上旬）が早すぎる。入学して間もないので実習園の様子が分からないまま決定せざるをえない。

②通勤手段が徒歩・自転車となっているため自宅に近い園を選ぶことになる。希望する園を選択できない場合がある。

また、実習園からは、特に初回の実習において学生の目的意識のなさや実習意欲の不足が見られるという指摘も相当数聞かれる。

これらの指摘は、学生の実習園決定から実習に至るプロセスを改めて見直すとともに、実習指導の内容を検討する必要があることを示している。

そこで、教育実習・保育実習指導の大学としての自己評価の一環として、まず学生に対してアンケート調査を行ない幼稚園・保育所の実習の依頼から実習事後指導までの一連の手続きやプロセスについて全体的に検討を加えることにした。またアンケート項目に実習に対する学生の自己評価を加えることによって、実習指導の内容や方法に改善をはかる点を明らかにすることを試みた。

Ⅱ. 目 的

- (1) 学生の意識調査を通して、実習園決定に関わる手続きや基準の現状を見直し、その改善点を明らかにする。
- (2) 実習に対する学生自身の自己評価を分析し、実習指導の内容・方法の改善をはかる。

Ⅲ. 方 法

質問紙法によって幼稚園・保育所実習終了後に調査を実施した。

○調査対象：幼稚園実習

保育科平成6年度入学生 171名のうち実習参加者 168名〔回答者 150名(回収率 89.3%)〕

初等教育科平成6年度入学生 74名のうち実習参加者 74名〔回答者 68名(回収率 91.9%)〕

：保育所実習

保育科平成6年度入学生 171名のうち実習参加者 170名〔回答者 165名(回収率 97.1%)〕

○調査期間：幼稚園実習

平成7年7月5日(水)～7日(金)

：保育所実習

平成7年11月29日(水), 12月6日(水), 12月13日(水)

○調査内容

①幼稚園、保育所の実習園の選択・決定と依頼の現状および学生による評価

②実習の内容に対する学生の自己評価

※保育所実習に対するアンケートは、幼稚園教育実習アンケートを踏まえ次の点を修正、補足した。

- ・依頼状を持参した期日については、明確な月日が不明な回答が多かったため「平成7年の何月に行ったか」のみの質問に変えた。
- ・実習園との実習前打ち合わせについては、行っていない学生がみられたため期日ではなく「訪問の有無」の質問に変えた。
- ・「実習園への通勤手段は何か」に対する回答で、その他の記述に「父母による送迎」がみられたため選択肢に加えた。

- ・「実習は自分の思い通りにできなかったと思う理由は何ですか」に対する回答で、「事前学習が不足だった」「専門的知識・技術が不足だった」が多くみられたためその具体的な内容についての質問を加えた。

なお、本調査は本学実習指導課により実習指導改善のための検討の一環として行なわれたものである。その調査内容は、山田、濱田、佐々木が原案を作成し、同委員会で検討、了承され、実施されたものである。しかしながら、以下に記す調査結果に対する考察は同課の責任によるものではなく、4名の共同研究によるものである。

<質問紙>

幼稚園教育実習についてのアンケート

このアンケートは、幼稚園教育実習の実習園決定の手続について現状を把握するためのものです。
実習指導課 平成7年7月

() 科 クラス () 学籍番号 () 氏名 ()

1 実習願の提出時期（第1学年 5月下旬）は適当であったと考えますか

- ☐ア 適当であった
☐イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと考えますか

→ いつが適当であったと考えますか

- ☐ウ わからない

2 実習園を決定するにあたって、考慮したことは何ですか（複数の項目を選んでも結構です）

- ☐ア 自宅から最も近い ☐イ 出身園 ☐ウ 知っている先生がいる
☐エ 評判を聞いて ☐オ 紹介された → だれからですか ()
☐カ その他 → 具体的に書いてください

3 実習園を徒歩あるいは自転車で通勤可能な範囲から選ぶというのは適当であったと考えますか

- ☐ア 適当であった
☐イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと考えますか

☐ウ わからない

4 実習園は第1志望園に受け入れてもらえましたか

☐ア 第1志望 ☐イ 第2志望 ☐ウ 第3志望

イ, ウの場合 → なぜ第1志望園に受け入れてもらえなかったか書いてください

5 依頼状を持参して、実習園へあいさつに行ったのはいつですか

平成6年()月()日 (忘れた場合は、およその期日で結構です)

6 実習園との実習前打ち合わせに行ったのはいつですか

1回目:平成7年()月()日

2回目:平成7年()月()日

7 実習園への通勤手段は何でしたか

☐ア 徒歩 ☐イ 自転車 ☐ウ バイク ☐エ 自動車 ☐オ バス

☐カ その他 → 具体的に書いてください

8 実習は自分の思い通りにできたと思いますか

☐ア できた → できたと思う理由を具体的に書いてください

☐イ できなかった → できなかったと思う理由は何ですか(複数の項目を選んでも結構です)

☐① 目的意識・意欲が十分でなかった

☐⑤ 子ども達との十分な関わり方が持てなかった

☐② 事前学習が不足だった

☐⑥ 先生方と十分なコミュニケーションが取れなかった

☐③ 専門的知識・技術が不足だった

☐⑦ 園の保育方針等に疑問を感じた

☐④ 研究保育がうまくいかなかった

☐⑧ 自分は保育者に適していないと感じた

☐⑨ その他 → 具体的に書いてください

☐ウ どちらともいえない

→ どちらともいえない理由を具体的に書いてください

保育所実習についてのアンケート

このアンケートは、保育実習ⅠⅡ（保育所実習）の実習園決定の手続などについて現状を把握するためのものです。7月には幼稚園の教育実習について調査をしましたが、今回は保育所についての調査なので、引き続き協力してください。

実習指導課 平成7年11月

保育科 クラス（ ） 学籍番号（ ） 氏名（ ）

1 実習願の提出時期（第1学年 6月上旬）は適当であったと考えますか

☐ア 適当であった

☐イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと考えますか

--	--

→ いつが適当であったと考えますか

--	--

☐ウ わからない

2 実習園を決定するにあたって、考慮したことは何ですか(複数の項目を選んでも結構です)

☐ア 自宅から最も近い ☐イ 出身園 ☐ウ 知っている先生がいる ☐エ 評判を聞いて

☐オ 紹介された → だれからですか（ ）

☐カ その他 → 具体的に書いてください

--	--

3 実習園を徒歩あるいは自転車で通勤可能な範囲から選ぶというのは適当であったと考えますか

☐ア 適当であった

☐イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと考えますか

--	--

☐ウ わからない

4 実習園は第1志望園に受け入れてもらえましたか

☐ア 第1志望

☐イ 第2志望

☐ウ 第3志望

イ、ウの場合 → なぜ第1志望園に受け入れてもらえなかったか書いてください

--	--

5 依頼状を持参して、実習園へあいさつに行ったのはいつですか

平成6年（ ）月

6 実習園との実習前打ち合わせに行きましたか

保育実習Ⅰ(2月の実習): ☐ア 行った ☐イ 行かなかった ☐ウ 来なくてよいと言われた保育実習Ⅱ(11月の実習): ☐ア 行った ☐イ 行かなかった ☐ウ 来なくてよいと言われた

7 実習園への通勤手段は何でしたか

☐ア 徒歩 ☐イ 自転車 ☐ウ バイク ☐エ 自動車 ☐オ バス ☐カ 父母などによる送迎☐キ その他 → 具体的に書いてください

8 実習は自分の思い通りにできたと思いますか

☐ア ⅠⅡともに「できた」☐イ Ⅰは「できた」がⅡは「できなかった」☐ウ Ⅰは「できなかった」がⅡは「できた」☐エ ⅠⅡともに「できなかった」☐オ どちらともいえない

・2回とも、あるいは1回でも「できた」と思う理由を具体的に書いてください

・2回とも、あるいは1回でも「できなかった」と思う理由は何ですか(複数の項目を選んでも結構です)

☐① 目的意識・意欲が十分でなかった☐② 事前学習が不足だった☐③ 専門的知識・技術が不足だった☐④ 研究保育がうまくいかなかった☐⑤ 子ども達との十分な関わり方が持てなかった☐⑥ 先生方と十分なコミュニケーションが取れなかった☐⑦ 園の保育方針等に疑問を感じた☐⑧ 自分は保育者に適していないと感じた☐⑨ その他 → 具体的に書いてください

※② 事前学習が不足だった ③ 専門的知識・技術が不足だった → 具体的に書いてください

・どちらともいえない理由を具体的に書いてください

IV. 結 果

「幼稚園教育実習についてのアンケート」集計結果（保育科）

A1 - 1. 実習願の提出時期は適当であったと考えますか

	人 数	割 合 (%)
ア. 適当であった	101	67.4
イ. 適当でなかった	39	26.0
ウ. わからない	8	5.3
無回答	2	1.3
計	150	100.0

A1 - 2. 実習園を決定するにあたって、考慮したことは何ですか

	人 数	割 合 (%)
ア. 自宅から最も近い	130	86.7
イ. 出身園	43	28.7
ウ. 知っている先生がいる	15	10.0
エ. 評判を聞いて	20	13.3
オ. 紹介された	3	2.0
カ. その他	23	15.3

A1 - 3. 実習園を徒歩あるいは自転車で通勤可能な範囲から選ぶというのは適当であったと考えますか

	人 数	割 合 (%)
ア. 適当であった	101	67.3
イ. 適当でなかった	43	28.7
ウ. わからない	6	4.0
無回答		
計	150	100.0

A1 - 4. 実習園は第1志望園に受け入れてもらえましたか

	人 数	割 合 (%)
ア. 第1志望	127	84.7
イ. 第2志望	14	9.3
ウ. 第3志望	3	5.3
無回答	1	0.7
計	150	100.0

A1 - 5. 依頼状を持参して、実習園へあいさつに行ったのはいつですか

	人 数	割 合 (%)
平成6年7月中(夏季休業開始後)	70	46.7
8月中	13	8.7
夏季休業中	1	0.7
9月中	8	5.3
10月中	3	2.0
無効	32	21.3
無回答・忘れた	23	15.3
計	150	100.0

A1 - 6. 実習園と事前打ち合わせに行ったのはいつですか

	人数(1回目)	割 合 (%)	人数(2回目)	割 合 (%)
平成7年4/1～4/15	6	4.0		
4/16～4/30	24	16.0		
4月中	3	2.0	1	0.7
5/1～5/15	52	34.7	6	4.0
5/16～5/27	35	23.3	36	24.0
5月中	11	7.3	5	3.3
来なくてよいと言われた・行かなかった			9	6.0
遠方なので電話した	1	0.7	1	0.7
無効	4	2.7	4	2.7
無回答・忘れた	14	9.3	88	58.6
計	150	100.0	150	100.0

A1 - 7. 実習園への通勤手段は何でしたか

	人 数	割 合 (%)
ア. 徒歩	27	18.0
イ. 自転車	80	53.3
ウ. バイク	5	3.3
エ. 自動車	15	10.0
オ. バス	4	2.7
カ. その他	19	12.7
計	150	100.0

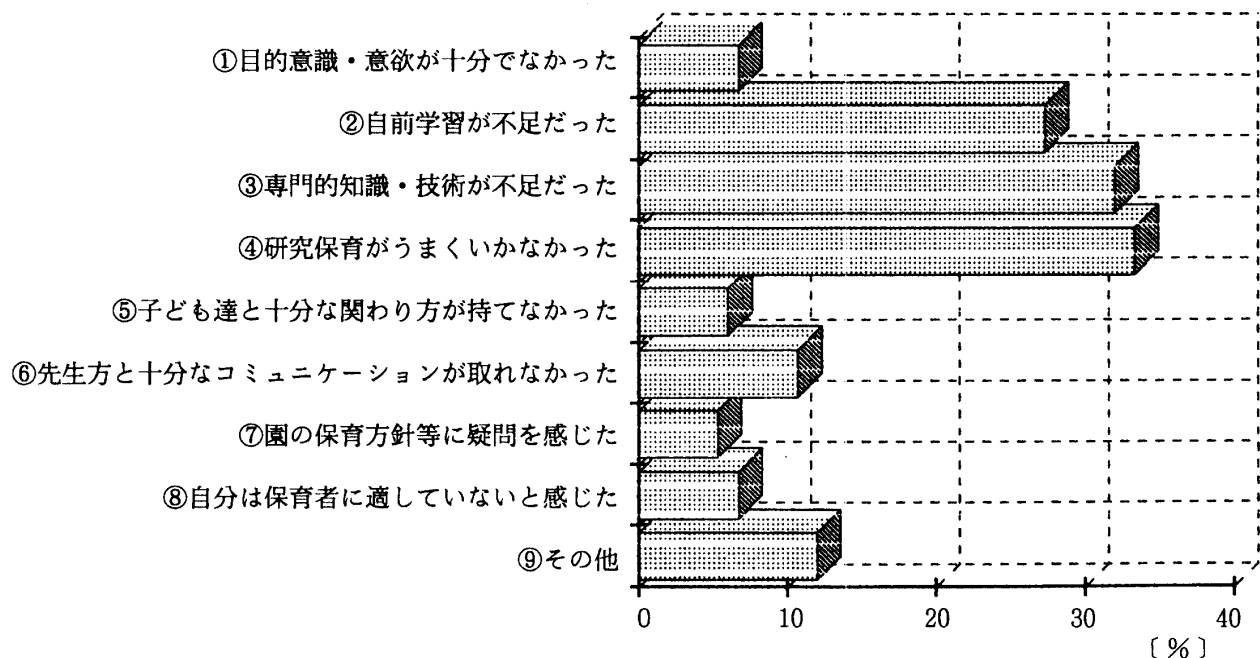
A1 - 8①. 実習は自分の思い通りにできたと思いますか

	人 数	割 合 (%)
ア. できた	46	30.7
イ. できなかった	88	58.6
ウ. どちらともいえない	15	10.0
ア・イ.	1	0.7
計	150	100.0

A1 - 8②. イ. できなかった→できなかったと思う理由は何ですか

	人 数	割 合 (%)
①目的意識・意欲が十分でなかった	10	6.7
②事前学習が不足だった	41	27.3
③専門的知識・技術が不足だった	48	32.0
④研究保育がうまくいかなかった	50	33.3
⑤子ども達と十分な関わり方が持てなかった	9	6.0
⑥先生方と十分なコミュニケーションが取れなかった	16	10.7
⑦園の保育方針等に疑問を感じた	8	5.3
⑧自分は保育者に適していないと感じた	10	6.7
⑨その他	18	12.0

A1 - 8③. イ. できなかった→できなかったと思う理由は何ですか



A1 - a. 1. および 8. との関連

	ア. できた	イ. できなかった	ウ. どちらともいえない	ア.・イ.	計
ア. 適当であった	32 (31.7%)	58 (57.4%)	10 (9.9%)	1 (1.0%)	101
イ. 適当でなかった	12 (30.8%)	23 (58.9%)	4 (10.3%)		39
ウ. わからない		7 (87.5%)	1 (12.5%)		8
無回答	2 (100.0%)				2
計	46 (30.7%)	88 (58.6%)	15 (10.0%)	1 (0.7%)	150

χ^2 検定 ($\chi^2 = N \left[\sum_{i,j} \frac{n_{ij}^2}{n_i n_j} - 1 \right]$) から 1. ア. / イ. による 8. ア. / イ. / ウ. の回答比率に有意差はみられなかった

$$(\chi^2 = 0.02 \quad df=2 \quad P>.50)$$

A1 - b. 3. および 8. との関連

	ア. できた	イ. できなかった	ウ. どちらともいえない	ア.・イ.	計
ア. 適当であった	31 (30.7%)	60 (59.4%)	10 (9.9%)		101
イ. 適当でなかった	12 (27.9%)	25 (58.2%)	5 (10.3%)	1 (2.3%)	43
ウ. わからない	3 (50.0%)	3 (50.0%)			6
無回答					
計	46 (30.7%)	88 (58.6%)	15 (10.0%)	1 (0.7%)	150

χ^2 検定から 3. ア. / イ. による 8. ア. / イ. / ウ. の回答比率に有意差はみられなかった

$$(\chi^2 = 1.71 \quad df=2 \quad P>.40)$$

A1 - c. 4. および 8. との関連

	ア. できた	イ. できなかった	ウ. どちらともいえない	ア.・イ.	計
ア. 第1志望	42 (33.3%)	71 (56.4%)	13 (10.3%)		126
イ. 第2志望	2 (13.3%)	10 (66.7%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	15
ウ. 第3志望	2 (25.0%)	6 (75.0%)			8
無回答		1 (100.0%)			1
計	46 (30.7%)	88 (58.6%)	15 (10.0%)	1 (0.7%)	150

χ^2 検定から 4. ア. / イ. / ウ. による 8. ア. / イ. / ウ. の回答比率に有意差はみられなかった

$$(\chi^2 = 1.51 \quad df=4 \quad P>.50)$$

1 □イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと考えますか

- 考える時間がなかった，考える時間がほしかった（12）
- 入学したばかりで実習や幼稚園のことが分かっていなかった（12）
- 早すぎた（11）
- 園の紹介や説明を聞いたり資料をみて決めたかった（8）
- 実習したい園を探したかった（1）

1 □イ 適当でなかった → いつが適当であったと考えますか

- 夏休み終了前後（17）
- 後期以降（13）
- せめて6月（2）
- 夏休み前（2）
- 実習開始半月前（1）

2 □オ 紹介された → だれからですか

- 先生から（2）
- 市の保育所に勤めているおばとその娘から（1）

2 □カ その他 → 具体的に書いてください

- 原則に従って，原則に従わなければいけないと考えて町内や近くから（8）
- 園に興味があった（5）
- 妹や知人の子が通っていた，通っている園（3）
- 附属に行かなければいけないと勘違いした（2）
- 志望園に行けず，仕方なく（2）
- なかなか決まらず，手当たり次第（1）
- 電話帳で調べて（1）
- 先輩に聞いて（1）
- 園児が少なく勉強にならないと思った（1）

3 □イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと考えますか

- 希望する園，就職したい園，興味のある園，評判のよい園を自分で選択できない（25）
- 徒歩や自転車で通勤可能な範囲に園がない，自動車でも遠い（17）
- 雨や荷物の多い日は大変なので自動車やバイク通勤も考慮してほしい（6）
- 距離があってバスで通ったが，その園を選んで正解（1）

4 イ，ウの場合 → なぜ第1志望に受け入れてもらえなかったか書いてください

- 実習希望者が多かった（6）
- 実習生を受け入れていない（2）

- ・理由不明で断られた（２）
- ・指導できる先生がいるか分からない（１）
- ・自由保育で勉強にならない（１）
- ・３週間は無理（１）
- ・町内にないので他町を志望したら町内在住者でなければ受け入れない（１）
- ・園が小さかった（１）
- ・出身園だったが、他の短大の附属だった（１）

7 □カ その他 → 具体的に書いてください

- ・送迎，親の送迎，親の通勤に便乗（６）
- ・雨の日は自動車（３）
- ・友人宅までバイク，そこから徒歩（１）
- ・自転車を盗まれたので園の許可を得てバイク（１）

8 □ア できた → できたと思う理由を具体的に書いてください

- ・子どもたちと十分な関わりがもてともに楽しく遊べた，喜んでもらえた（26）
- ・先生方から優しく指導を受けたくさん学び取ることができた，疑問がすぐ解決できた（13）
- ・のびのびできた，思っていたことが自由にできた（10）
- ・研究保育も自分なりによくやれた，勉強になった（５）
- ・幼稚園教諭になりたいと思った，興味が深まった（５）
- ・実習を終えて良かったと思えた，充実感があった（３）
- ・先生方が口出しせず見守ってくれた，ほめられた（３）
- ・目的をもって行けた（１）
- ・保育園では学べないことを学び発見した（１）

8 □イ できなかった □⑨その他 → 具体的に書いてください

- ・研究保育が自分の思うようにできなかった，準備不足だった（３）
- ・子どもたちを十分把握できなかった（２）
- ・日誌の書き方，言葉遣いを注意された（２）
- ・子どもたちを思い切り活動させることができなかった（１）
- ・子どもをうまく叱ることができなかった（１）
- ・園の雰囲気慣れるのに時間がかかった（１）
- ・風邪をひいて声が出なかった（１）
- ・ピアノで苦労した（１）
- ・先生に気を使ってのびのびできなかった（１）
- ・園の方針に背いた（１）

8 □ウ どちらともいえない → どちらともいえない理由を具体的に書いてください

- ・うまくできたこともあったが失敗もあった、迷惑もかけた（５）
- ・３週目は慣れたが、１～２週目は子どもたちをまとめられなかった（２）
- ・子どもたちとは楽しく過ごせたが、疑問に思うことが度々あった（１）
- ・子どもたちとは楽しく過ごせたが、子どもたちをまとめられず力不足を感じた（１）
- ・子どもたちとは十分な関わりがもてたが、表情に変化がないと注意を受け悩んだ（１）
- ・子どもたちや先生とは十分なコミュニケーションが取れたが、ピアノが弾けなかった（１）
- ・子どもたちや先生とは十分なコミュニケーションが取れたが、研究保育などの準備不足を感じた（１）
- ・研究保育が思ったよりうまくいかなかった（１）
- ・研究保育はうまくいったが、知識や技術不足を感じた（１）
- ・自分なりの毎日の課題で精一杯だった（１）

「幼稚園教育実習についてのアンケート」集計結果（初等教育科）

A2 - 1. 実習願の提出時期は適当であったと考えますか

	人 数	割 合 (%)
ア. 適当であった	59	86.8
イ. 適当でなかった	7	10.0
ウ. わからない	2	2.9
無回答		
計	68	100.0

A2 - 2. 実習園を決定するにあたって、考慮したことは何ですか

	人 数	割 合 (%)
ア. 自宅から最も近い	44	64.7
イ. 出身園	23	41.2
ウ. 知っている先生がいる	13	19.1
エ. 評判を聞いて	4	5.9
オ. 紹介された	1	1.5
カ. その他	10	14.7

A2 - 3. 実習園を徒歩あるいは自転車で通勤可能な範囲から選ぶというのは適当であったと考えますか

	人 数	割 合 (%)
ア. 適当であった	55	80.9
イ. 適当でなかった	9	13.2
ウ. わからない	3	4.4
無回答	1	1.5
計	68	100.0

A2 - 4. 実習園は第1志望園に受け入れてもらえましたか

	人 数	割 合 (%)
ア. 第1志望	61	89.7
イ. 第2志望	6	8.8
ウ. 第3志望		
無回答	1	1.5
計	68	100.0

A2 - 5. 依頼状を持参して、実習園へあいさつに行ったのはいつですか

	人 数	割 合 (%)
平成6年7月中	55	80.9
8月中	1	1.5
夏季休業中	2	2.9
9月中	1	1.5
来なくてよいと言われた	2	2.9
無回答・忘れた	7	10.3
計	68	100.0

A2 - 6. 実習園との事前打ち合わせに行ったのはいつですか

	人数(1回目)	割 合 (%)	人数(2回目)	割 合 (%)
平成7年1/9～1/15			2	2.9
1/16～1/31	2	2.9		
2/1～2/18	44	64.7	16	23.5
無効	7	10.3		
無回答・忘れた	15	22.1	50	73.6
計	68	100.0	68	100.0

A2 - 7. 実習園への通勤手段は何でしたか

	人 数	割 合 (%)
ア. 徒歩	15	23.8
イ. 自転車	37	58.7
ウ. バイク	1	1.6
エ. 自動車	6	9.5
オ. バス	2	3.2
カ. その他	2	3.2
計	68	100.0

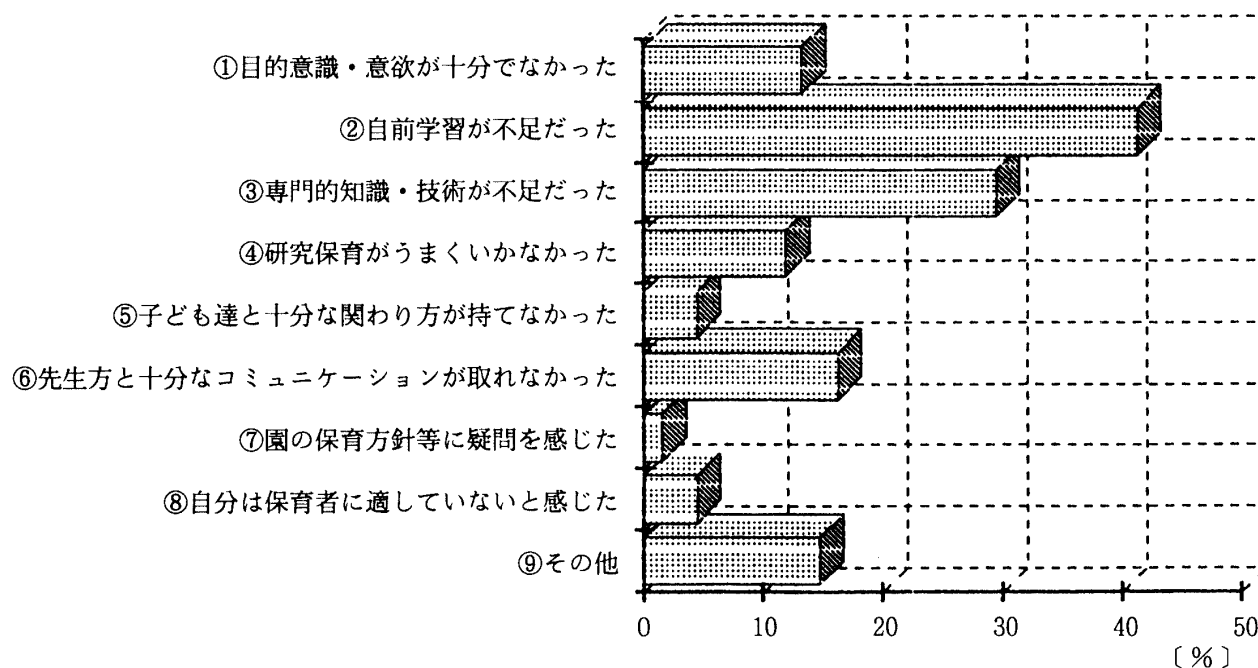
A2 - 8①. 実習は自分の思い通りにできたと思いますか

	人 数	割 合 (%)
ア. できた	22	32.4
イ. できなかった	37	54.4
ウ. どちらともいえない	7	10.3
ア・イ.	2	2.9
計	68	100.0

A2 - 8②. イ. できなかった→できなかったと思う理由は何ですか

	人 数	割 合 (%)
①目的意識・意欲が十分でなかった	9	13.2
②事前学習が不足だった	28	41.2
③専門的知識・技術が不足だった	20	29.4
④研究保育がうまくいかなかった	8	11.8
⑤子ども達と十分な関わり方が持てなかった	3	4.4
⑥先生方と十分なコミュニケーションが取れなかった	11	16.2
⑦園の保育方針等に疑問を感じた	1	1.5
⑧自分は保育者に適していないと感じた	3	4.4
⑨その他	18	14.7

A2 - 8③. イ. できなかった→できなかったと思う理由は何ですか



A2 - a. 1. および8. との関連

	ア. できた	イ. できなかった	ウ. どちらともいえない	ア・イ	計
ア. 適当であった	32 (31.7%)	58 (57.4%)	10 (9.9%)	1 (1.0%)	101
イ. 適当でなかった	12 (30.8%)	23 (58.9%)	4 (10.3%)		39
ウ. わからない		7 (87.5%)	1 (12.5%)		8
無回答	2 (100.0%)				2
計	46 (30.7%)	88 (58.6%)	15 (10.0%)	1 (0.7%)	150

χ^2 検定から1. ア. /イ. による8. ア. /イ. /ウ. の回答比率に有意差はみられなかった
($\chi^2=0.02$ df=2 P>.50)

A2 - b. 3. および8. との関連

	ア. できた	イ. できなかった	ウ. どちらともいえない	ア・イ	計
ア. 適当であった	31 (30.7%)	60 (59.4%)	10 (9.9%)		101
イ. 適当でなかった	12 (27.9%)	25 (58.2%)	5 (10.3%)	1 (2.3%)	43
ウ. わからない	3 (50.0%)	3 (50.0%)			6
無回答					
計	46 (30.7%)	88 (58.6%)	15 (10.0%)	1 (0.7%)	150

χ^2 検定から3. ア. /イ. による8. ア. /イ. /ウ. の回答比率に有意差はみられなかった
($\chi^2=1.71$ df=2 P>.40)

A2 - c. 4. および8. との関連

	ア. できた	イ. できなかった	ウ. どちらともいえない	ア・イ	計
ア. 第1志望	42 (33.3%)	71 (56.4%)	13 (10.3%)		126
イ. 第2志望	2 (13.3%)	10 (66.7%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	15
ウ. 第3志望	2 (25.0%)	6 (75.0%)			8
無回答		1 (100.0%)			1
計	46 (30.7%)	88 (58.6%)	15 (10.0%)	1 (0.7%)	150

χ^2 検定から4. ア. /イ. /ウ. による8. ア. /イ. /ウ. の回答比率に有意差はみられなかった

($\chi^2=1.51$ df=4 P>.50)

1 ☐イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと考えますか

- ・入学したばかりで、状況把握ができていなかった (2)
- ・実習に行くまでに時間がありすぎて気が抜けた (2)
- ・早すぎた (2)
- ・他の書類や手続と一緒に重みがなかった (1)
- ・現実をみて採用試験をあきらめるなど、教職に対する意識変化がある (1)

1 ☐イ 適当でなかった → いつが適当であったと考えますか

- ・夏休み終了前後（3）
- ・夏休み前（2）
- ・後期以降（1）

2 ☐オ 紹介された → だれからですか

- ・母から（1）

2 ☐カ その他 → 具体的に書いてください

- ・妹や従兄が通っていた園（3）
- ・附属を選んだ（3）
- ・原則に従って、従わなければいけないと考えて町内から（2）
- ・先生のアドバイスを聞いて（1）
- ・園に興味があった（1）

3 ☐イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと考えますか

- ・徒歩や自転車で通勤可能な範囲に園がない、自動車でも遠い（4）
- ・自分の行きたい園に行くのがよいと思う、希望の園に行けない（4）
- ・山越えが大変（1）

4 ☐イ, ウの場合 → なぜ第1志望に受け入れてもらえなかったか書いてください

- ・実習時期が悪い（2）
- ・幼保園だった（1）
- ・自宅から遠かった（1）
- ・実習生を受け入れていない（1）
- ・第2志望の附属にまわされた（1）

7 ☐カ その他 → 具体的に書いてください

- ・親の送迎（3）
- ・徒歩とバス（1）
- ・電車（1）

8 ☐ア できた → できたと思う理由を具体的に書いてください

- ・子どもたちと十分な関わりがもてともに楽しく遊べた、喜んでもらえた（11）
- ・研究保育も自分なりによくやれた、子どもが喜んでくれた（9）
- ・実習を終えて良かったと思えた、充実感があった（5）
- ・先生方から優しく指導を受けたくさん学び取ることができた（4）
- ・のびのびできた、思っていたことが自由にできた（3）
- ・幼稚園教諭になりたいと思った、保母の母を心から尊敬できるようになった（2）
- ・実習生同志で協力できた（1）
- ・様々な行事に参加できた（1）

- ・初めはこのようなものと思う（１）

8 ☐イ できなかった ☐⑨その他 → 具体的に書いてください

- ・先生が冷たく辛かった，付き合い辛かった（３）
- ・ピアノで苦勞した（２）
- ・子どもの対処の仕方が分からなかった（１）
- ・子どもを引き付ける手遊びなどの技術を身につけておくべきだった（１）
- ・初めてで何をしていいか分からず迷惑をかけた，やり直したい（１）
- ・細かいところまで気を配れなかった（１）
- ・体調を崩した（１）
- ・清掃ばかりだった（１）

8 ☐ウ どちらともいえない → どちらともいえない理由を具体的に書いてください

- ・子どもたちや先生とは十分なコミュニケーションが取れたが，ピアノが弾けなかった（２）
- ・うまくできたこともあったが，失敗もあった（１）
- ・自分の思い通りにできたが，細かいところで力不足や勉強不足を感じた（１）
- ・子どもたちや先生とは十分なコミュニケーションが取れたが，専門的技術が不足と感じた（１）
- ・子どもたちや先生とは十分なコミュニケーションが取れたが，子どもへの接し方や言葉かけで反省（１）
- ・実習期間が短く，やりたいことがはっきりしないまま過ぎてしまった（１）

「保育所実習についてのアンケート」集計結果

B - 1. 実習願の提出時期は適当であったと考えますか

	人 数	割 合 (%)
ア. 適当であった	113	68.4
イ. 適当でなかった	43	26.1
ウ. わからない	9	5.5
無回答		
計	165	100.0

B - 2. 実習園を決定するにあたって，考慮したことは何ですか

	人 数	割 合 (%)
ア. 自宅から最も近い	135	81.8
イ. 出身園	36	21.8
ウ. 知っている先生がいる	27	16.4
エ. 評判を聞いて	22	13.3
オ. 紹介された	7	4.2
カ. その他	4	2.4

B - 3. 実習園を徒歩あるいは自転車で通勤可能な範囲から選ぶというのは適当であったと考えますか

	人 数	割 合 (%)
ア. 適当であった	99	60.0
イ. 適当でなかった	54	32.7
ウ. わからない	12	7.3
無回答		
計	165	100.0

B - 4. 実習園は第1志望園に受け入れてもらえましたか

	人 数	割 合 (%)
ア. 第1志望	154	93.3
イ. 第2志望	10	6.1
ウ. 第3志望		
無回答	1	0.6
計	165	100.0

B - 5. 依頼状を持参して実習園へあいさつに行ったのはいつですか

	人 数	割 合 (%)
平成6年7月	62	37.7
8月	19	11.5
7, 8月	2	1.2
9月	5	3.0
10月	9	5.5
無効	46	27.8
無回答	22	13.3
計	165	100.0

B - 6①. 実習園との事前打ち合わせに行きましたか（保育実習Ⅰ）

	人 数	割 合 (%)
ア. 行った	158	95.8
イ. 行かなかった		
ウ. 来なくてよいと言われた	5	3.0
無回答	2	1.2
計	165	100.0

B - 6②. 実習園との事前打ち合わせに行きましたか(保育実習Ⅱ)

	人 数	割 合 (%)
ア. 行った	137	83.1
イ. 行かなかった	5	3.0
ウ. 来なくてよいと言われた	22	13.3
無回答	1	0.6
計	165	100.0

B - 7. 実習園への通勤手段は何でしたか

	人 数	割 合 (%)
ア. 徒歩	36	21.8
イ. 自転車	90	54.6
ウ. バイク	6	3.6
エ. 自動車	12	7.3
オ. バス	2	1.2
カ. 父母などによる送迎	7	4.2
キ. その他	12	7.3
計	165	100.0

B - 8①. 実習は自分の思い通りにできたと思いますか

	人 数	割 合 (%)
ア. IⅡともに「できた」	31	18.8
イ. Iは「できた」がⅡは「できなかった」	9	5.5
ウ. Iは「できなかった」がⅡは「できた」	71	42.9
エ. IⅡともに「できなかった」	27	16.4
オ. どちらともいえない	27	16.4
計	165	100.0

B - 8②. イ. →できなかったと思う理由は何ですか

	人 数	割合 (%)**	割合 (%)**
①目的意識・意欲が十分でなかった	1	0.6	0.9
②事前学習が不足だった	3	1.8	2.8
③専門的知識・技術が不足だった	3	1.8	2.8
④研究保育がうまくいかなかった	4	2.4	3.7
⑤子ども達と十分な関わり方が持てなかった	1	0.6	0.9
⑥先生方と十分なコミュニケーションが取れなかった	1	0.6	0.9
⑦園の保育方針等に疑問を感じた	1	0.6	0.9
⑧自分は保育者に適していないと感じた	1	0.6	0.9
⑨その他	1	0.6	0.9

*イ イ. (100%=9人)について

**イ. ・ウ. ・エ. (100%=107人)について

B - 8 ③. ウ. →できなかったと思う理由は何ですか

	人 数	割合 (%)**	割合 (%)**
①目的意識・意欲が十分でなかった	13	7.9	12.1
②事前学習が不足だった	22	13.3	20.6
③専門的知識・技術が不足だった	23	13.9	21.5
④研究保育がうまくいかなかった	12	7.3	11.2
⑤子ども達と十分な関わり方が持てなかった	20	12.1	18.7
⑥先生方と十分なコミュニケーションが取れなかった	8	4.8	7.5
⑦園の保育方針等に疑問を感じた	3	1.8	2.8
⑧自分は保育者に適していないと感じた	2	1.2	1.9
⑨その他	3	1.8	2.8

*ウ ウ. (100%=71人)について

**イ.・ウ.・エ. (100%=107人)について

B - 8 ④. エ. →できなかったと思う理由は何ですか

	人 数	割合 (%)**	割合 (%)**
①目的意識・意欲が十分でなかった	8	4.6	7.5
②事前学習が不足だった	8	4.8	7.5
③専門的知識・技術が不足だった	15	9.1	14.0
④研究保育がうまくいかなかった	13	7.9	12.1
⑤子ども達と十分な関わり方が持てなかった	3	1.8	2.8
⑥先生方と十分なコミュニケーションが取れなかった	6	3.6	5.6
⑦園の保育方針等に疑問を感じた	5	3.0	4.7
⑧自分は保育者に適していないと感じた	5	3.0	4.7
⑨その他	4	2.4	3.7

*エ エ. (100%=27人)について

**イ.・ウ.・エ. (100%=107人)について

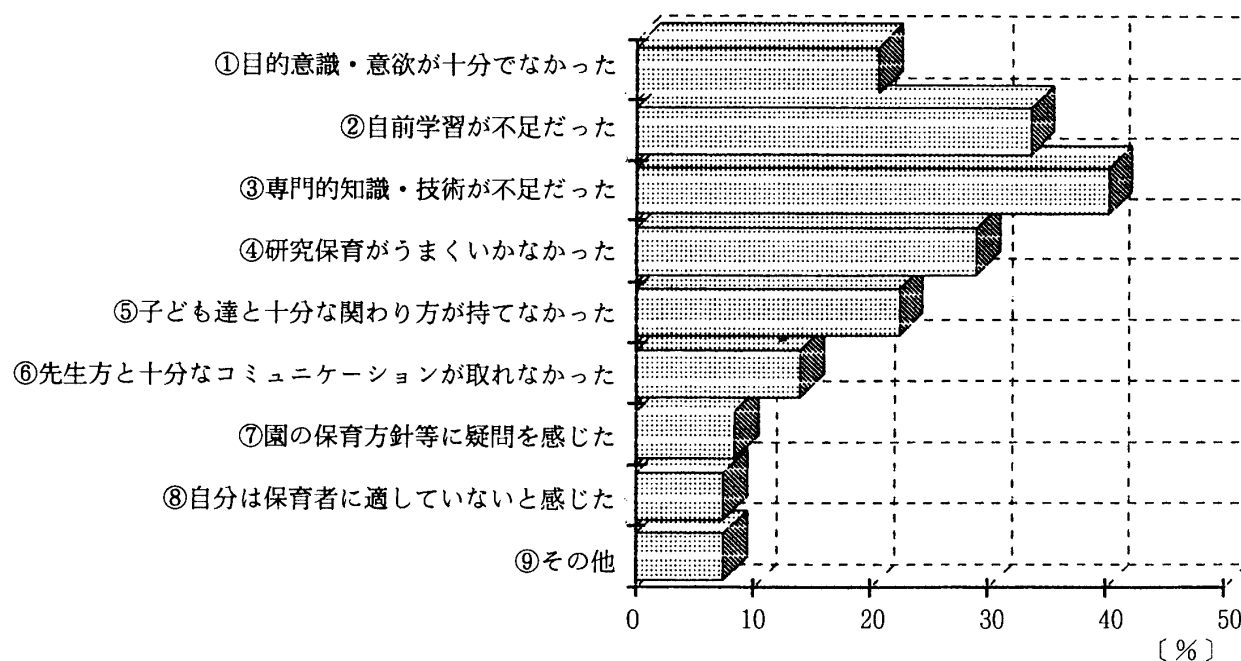
B - 8 ⑤. オ. →できなかったと思う理由は何ですか

	人 数
①目的意識・意欲が十分でなかった	
②事前学習が不足だった	3
③専門的知識・技術が不足だった	2
④研究保育がうまくいかなかった	2
⑤子ども達と十分な関わり方が持てなかった	
⑥先生方と十分なコミュニケーションが取れなかった	
⑦園の保育方針等に疑問を感じた	
⑧自分は保育者に適していないと感じた	
⑨その他	

B - 8⑥. できなかったと思う理由は何ですか(イ・ウ・エ.)

	人 数	割 合 (%)
①目的意識・意欲が十分でなかった	22	20.6
②事前学習が不足だった	36	33.6
③専門的知識・技術が不足だった	43	40.2
④研究保育がうまくいかなかった	31	29.0
⑤子ども達と十分な関わり方が持てなかった	24	22.4
⑥先生方と十分なコミュニケーションが取れなかった	15	14.0
⑦園の保育方針等に疑問を感じた	9	8.4
⑧自分は保育者に適していないと感じた	8	7.5
⑨その他	8	7.5

B - 8⑦. できなかったと思う理由は何ですか(イ・ウ・エ.)



B - a. 1. および 8. との関連

	ア. I II ともに「できた」	イ. Iは「できた」が II「できなかった」	ウ. Iは「できなかった」が II「できた」	エ. I II ともに「できなかった」	オ. どちらともいえない	計
ア. 適当であった	23 (20.4%)	4 (3.5%)	51 (45.1%)	19 (16.8%)	16 (14.2%)	113
イ. 適当でなかった	7 (16.3%)	4 (9.3%)	16 (37.1%)	6 (14.0%)	10 (23.3%)	43
ウ. わからない	1 (11.1%)	1 (11.1%)	4 (44.5%)	2 (22.2%)	1 (11.1%)	9
計	31 (18.8%)	9 (5.5%)	71 (42.9%)	27 (16.4%)	27 (16.4%)	165

χ^2 検定から 1. ア. / イ. による 8. ア. / イ. / ウ. / エ. / オ. の回答比率に有意差はみられなかった

$$(\chi^2=4.45 \quad df=4 \quad P>.30)$$

B - b. 3. および 8. との関連

	ア. I II ともに「できた」	イ. I は「できた」が II 「できなかった」	ウ. I は「できなかった」が II 「できた」	エ. I II ともに「できなかった」	オ. どちらともいえない	計
ア. 適当であった	20 (20.2%)	5 (5.1%)	41 (41.3%)	17 (17.2%)	16 (16.2%)	99
イ. 適当でなかった	9 (16.7%)	3 (5.6%)	24 (44.4%)	8 (14.8%)	10 (18.5%)	54
ウ. わからない	2 (16.7%)	1 (8.3%)	6 (50.0%)	2 (16.7%)	1 (8.3%)	12
計	31 (18.8%)	9 (5.5%)	71 (42.9%)	27 (16.4%)	27 (16.4%)	165

χ^2 検定から 3. ア. / イ. による 8. ア. / イ. / ウ. / エ. / オ. の回答比率に有意差はみられなかった

$$(\chi^2=0.56 \quad df=4 \quad P>.50)$$

B - c. 4. および 8. との関連

	ア. I II ともに「できた」	イ. I は「できた」が II 「できなかった」	ウ. I は「できなかった」が II 「できた」	エ. I II ともに「できなかった」	オ. どちらともいえない	計
ア. 第 1 志望	31 (20.1%)	7 (4.5%)	64 (41.7%)	27 (17.5%)	25 (16.2%)	154
イ. 第 2 志望		1 (10.0%)	7 (70.0%)		2 (20.0%)	10
ウ. 第 3 志望						
無回答		1 (100.0%)				1
計	31 (18.8%)	9 (5.5%)	71 (42.9%)	27 (16.4%)	27 (16.4%)	165

χ^2 検定から 4. ア. / イ. による 8. ア. / イ. / ウ. / エ. / オ. の回答比率に有意差はみられなかった

$$(\chi^2=3.73 \quad df=4 \quad P>.50)$$

1 イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと考えますか

- どんな園なのか分からない状態で実習願を出すのは適当ではない (16)
- 早すぎた (11)
- 入学して間もないので保育所(園), 実習, 就職など何も分からない (9)
- 考える時間がほしかった (4)
- 早すぎて実習に対しての実感がなかった (3)

1 イ 適当でなかった → いつが適当であったと考えますか

- 夏休み後, 9 月 (15)
- 後期の始まる頃, 10 月 (8)
- 1 年の 6 月 (3)
- 自主実習後 (3)
- 実習 1, 2 ヶ月前くらい (3)
- 夏休み前 (1)
- 年内までに (1)

- 1年の2月, 3月, 2年の4月 (1)
- 2年の前期 (1)

2 オ 紹介された → だれからですか

- 保母をしているおば (1)
- おば (1)
- その園の先生から (1)
- 自主実習の保育所の所長 (1)
- その頃習っていたカワイ音楽教室の先生 (1)
- 実習担当教員 (1)

2 カ その他 → 具体的に書いてください

- アルバイト先の保育所だった (2)
- 公立の保育所を知りたかった (1)
- スイミングでその園の園児達の様子をみた (1)
- 妹の出身園で知っている先生や子どももいて自転車で通うのにもよかった (1)
- 無認可園を書いてしまい, 担任の先生にいくつかあげてもらいその中から決定した (1)
- 自宅に近い園にしたかったが, あいさつのとき「4人はだめ」と言われたので他の園にした (1)

3 イ 適当でなかった → なぜ適当でなかったと考えますか

- 行きたい園があっても遠ければ行けない, 行ってみたい園で実習するほうが頑張れる (16)
- 就職したいところ, 興味のあるところなど自由に選べた方がよい (14)
- 自転車で通える範囲に保育園がなかった, 自宅から離れていたので通勤が大変だった (14)
- もっと広い範囲で選ぶようにしてほしかった (6)
- 望むところを見つけてこようという意欲をもつ機会が得られなかった (1)
- どうしてもその園に行きたかったので車通勤を許可してもらい通った (1)
- もともとバスで通うくらい遠いところを選んでいた (1)
- 時間的にバス通でも大丈夫だと感じた (1)
- 公立の保育所だった (1)

4 イ, ウ → なぜ第1志望園に受け入れてもらえなかったか書いてください

- 他にも実習生がいた (4)
- 実習期間中に園の行事と重なる (1)
- 保育所の都合, 忙しい (1)

8 ・2回とも, あるいは1回でも「できた」という理由を具体的に書いてください

- 子どもたちと十分な関わりがもて楽しく遊べた, 言葉かけもできた

ア: 9 イ: 2 ウ: 17 計: 28

- ・余裕がもて積極的に子どもたちと関わられた、遊びを紹介できた
ア： 2 イ： 0 ウ： 16 計： 18
- ・先生から優しく指導を受け自由にさせてもらえた、任された
ア： 10 イ： 0 ウ： 7 計： 17
- ・園の方針や生活の流れ、子どもたちの状態が分かっていた
ア： 0 イ： 0 ウ： 15 計： 15
- ・研究保育がうまくできた、楽しくできた
ア： 0 イ： 0 ウ： 10 計： 10
- ・子どもたちとじかに関わり子どもたちの立場で考えられた、学校では知ることができないことを教わった
ア： 2 イ： 1 ウ： 4 計： 7
- ・子どもたちや先生方と十分な関わりがもて楽しかった
ア： 1 イ： 2 ウ： 1 計： 4
- ・目標を立てて頑張った
ア： 1 イ： 0 ウ： 3 計： 4
- ・実習を終えて満足感、充実感があつた
ア： 2 イ： 1 ウ： 1 計： 4
- ・自分らしくのびのびできた、特技を生かした
ア： 2 イ： 0 ウ： 1 計： 3
- ・Ⅰより学校で学んだ知識が増した、幼稚園実習などで成長した
ア： 0 イ： 0 ウ： 3 計： 3
- ・研究保育があつた
ア： 0 イ： 0 ウ： 2 計： 2
- ・意欲十分だった
ア： 1 イ： 0 ウ： 1 計： 2
- ・研究保育の準備に早くから取りかかった
ア： 0 イ： 0 ウ： 1 計： 1
- ・保母さんと同じように活動させてもらえた
ア： 0 イ： 0 ウ： 1 計： 1
- ・保母になりたいという気持ちが強くなった
ア： 1 イ： 0 ウ： 0 計： 1
- ・アルバイトをしていて事情が分かっていた
ア： 1 イ： 0 ウ： 0 計： 1
- ・Ⅰでの不十分な点を反省してⅡに臨んだ
ア： 0 イ： 0 ウ： 1 計： 1
- ・子どもが少なくまとめやすかった
ア： 0 イ： 1 ウ： 0 計： 1

8 ・2回とも、あるいは1回でも「できなかった」と思う理由はなんですか

⑨ その他 → 具体的に書いてください

- ・Ⅰ ははじめてで余裕をもって実習できなかった
イ： 0 ウ： 3 エ： 2 オ： 0 計： 5
- ・Ⅱ は発表会前で忙しくお手伝いくらいしかできなかった
イ： 1 ウ： 0 エ： 0 オ： 1 計： 2
- ・風邪をひいて1週間実習を休んだ
イ： 1 ウ： 0 エ： 0 オ： 0 計： 1
- ・子どもたちの特徴がつかめず研究保育がまとまりがなかった
イ： 1 ウ： 0 エ： 0 オ： 0 計： 1
- ・Ⅰ は子どもたちとは楽しく遊べたが、先生方のやり方をみているだけだった
イ： 0 ウ： 1 エ： 0 オ： 0 計： 1
- ・一歩引いて遠慮がちだった
イ： 0 ウ： 0 エ： 1 オ： 0 計： 1
- ・自分の実力を発揮できずお手伝いのような状態だった
イ： 0 ウ： 0 エ： 1 オ： 0 計： 1
- ・先生方が気になって積極的な行動が取れなかった
イ： 0 ウ： 0 エ： 1 オ： 0 計： 1
- ・子どもたちとは十分に関われたが、分からないことを探して先生方に質問することができなかった
イ： 0 ウ： 0 エ： 1 オ： 0 計： 1
- ・次の行動の予測ができないときがあった
イ： 0 ウ： 0 エ： 1 オ： 0 計： 1

8 ・2回とも、あるいは1回でも「できなかった」と思う理由はなんですか

※② 事前学習が不足だった ③ 専門的知識が不足だった → 具体的に書いてください

- ・子どもたちへの言葉かけや援助の仕方、環境設定など分からず戸惑った
ア： 0 イ： 1 ウ： 15 エ： 1 オ： 1 計： 18
- ・歌や手遊びの準備不足、練習不足
ア： 0 イ： 0 ウ： 7 エ： 1 オ： 1 計： 9
- ・どうすれば子どもたちを引き付けられるのか、導入や説明の仕方など分からず戸惑った
ア： 0 イ： 0 ウ： 3 エ： 3 オ： 0 計： 6
- ・紙芝居や絵本の読み聞かせの準備不足、練習不足
ア： 0 イ： 0 ウ： 4 エ： 2 オ： 0 計： 6
- ・ピアノの練習不足
ア： 0 イ： 1 ウ： 4 エ： 1 オ： 0 計： 6
- ・未満児クラスでの援助の経験がなくうまくいかなかった
ア： 0 イ： 0 ウ： 2 エ： 2 オ： 1 計： 5
- ・子どもの病気や健康面、具体的な応急手当についてもっと学習しておくべきだった
ア： 1 イ： 0 ウ： 1 エ： 2 オ： 0 計： 4

- ・日誌, 日案, 指導案などの書き方が分からなかった

ア： 0 イ： 0 ウ： 2 エ： 2 オ： 0 計： 4

- ・子どもの発達段階や個人差, 精神面についてもっと理解しておくべきだった

ア： 0 イ： 1 ウ： 0 エ： 3 オ： 0 計： 4

- ・子どもの立場に立って何を援助すれば遊びが発展するのか分からなかった

ア： 0 イ： 1 ウ： 2 エ： 0 オ： 0 計： 3

- ・研究保育の準備にもっと早く取りかかるべきだった

ア： 1 イ： 1 ウ： 0 エ： 0 オ： 1 計： 3

- ・実際に研究保育をしてみて知識や技術不足を感じた, 先生方から注意を受けた

ア： 0 イ： 0 ウ： 0 エ： 1 オ： 1 計： 2

- ・どうすればよいか分からず戸惑った

ア： 0 イ： 0 ウ： 1 エ： 1 オ： 0 計： 2

- ・叱ることができなかった

ア： 0 イ： 0 ウ： 1 エ： 0 オ： 0 計： 1

- ・判断力, 素早い行動, 大きな声が欠けていた

ア： 0 イ： 0 ウ： 0 エ： 1 オ： 0 計： 1

- ・先生方に比べて見通しの甘さを感じた

ア： 0 イ： 0 ウ： 0 エ： 1 オ： 0 計： 1

- ・いろんな遊びを教えてあげられなかった

ア： 0 イ： 0 ウ： 0 エ： 1 オ： 0 計： 1

- ・保育所指針や多くの事例をみておけばよかった

ア： 0 イ： 0 ウ： 1 エ： 0 オ： 0 計： 1

- ・みどり幼稚園での事前指導がもっとも勉強になった

ア： 0 イ： 0 ウ： 1 エ： 0 オ： 0 計： 1

- ・細かく時間配分していなかった

ア： 0 イ： 0 ウ： 0 エ： 0 オ： 1 計： 1

- ・言葉遣いなど

ア： 0 イ： 0 ウ： 0 エ： 1 オ： 0 計： 1

8 ・どちらともいえない理由を書いてください

- ・戸惑ったところも自信をもってできたところもありどちらともいえない, 自分では判断できない(10)
- ・積極性が足りなかったと反省する点もあった(3)
- ・園や先生方の保育に対する姿勢や環境構成に納得がいけないところがあった(3)
- ・先生方から明確な指示や評価をもらえればもっとプラスになって残ったのではないかと(3)
- ・体調を崩してしまった(2)
- ・思い通りということはなかなかないと思う。失敗もしたが学ぶことも多く貴重な経験になった(1)
- ・研究保育がうまくいかなかった(1)
- ・子どもの活動は予想を越えるもので研究保育で少し戸惑ったが, 当然だと思う(1)

- ・遊びに参加するとなかなか一人ひとりをじっくり観察できなかった（１）
- ・子どもたちは楽しんでいたが、時間が足りなかった（１）
- ・自分なりに頑張ったが、アドバイスなどたくさんしていただいた（１）

V. 結果について

A 幼稚園実習

1 実習願の提出時期について

- ・本学では1年次の6月上旬に提出となっている。これを適当であるとするものが保育科は約7割、初等教育科は9割近くになっている。従って、実習願の提出時期は概ね適切であるといえる。
- ・しかし、不適当であるとするものが保育科は1/4以上、初等教育科は1割存在する。特に保育科で1/4が不適当と考えている点は考慮されるべきである。自由記述による不適当である理由は、「実習幼稚園のことが分からず、園についてよく調べたり、知ったりなど、考える時間がほしかった」が圧倒的である。
- ・不適当とするものが保育科に多く、初等教育科に少ない。これは、学科の性格が異なることによる。保育科は幼児教育・保育に従事しようとする学生がほとんどであり、幼稚園実習への動機づけが高い。それに対して、初等教育科は小学校教諭を目指す学生がほとんどであり、しかも小学校実習の実習校が本学では最終的には学生自身ではなく校長会によって配当され決定されることも影響していると思われる。また、実習時期の違いも影響している。保育科は翌年度の2年次6月実習で充分時間があると感じられ、入学当初の1年前に実習園を決めることが早すぎると考えるのではないか。初等教育科は年度内の1年次2月実習で間近に感じられるためではないか。

これらを考慮して、保育科の幼稚園実習の願提出のあり方はある程度改善される必要がある。時期については、幼稚園側の受け入れ状況も考慮しつつ検討される必要がある。また特に、幼稚園についての情報が少ないことも不適当の理由になっているのでオリエンテーションの時期や内容を改善することが求められる。

2 実習園決定の視点について

- ・両学科とも「自宅から最も近い」が多い、次いで「出身園」になっている。これは、本学の実習園の選択にあたって「徒歩または自転車で通勤できる場所」という指導の結果であり、その指導が正確に受けとめられていることを示している。
- ・初等教育科では、保育科に比べて、出身園が41%と高くなっているのが特徴的である。これは、小学校教育実習校の希望にあたって、「徒歩または自転車で通勤可能」という視点に加えて「出身校であればさらに望ましい」という指導を行なっていることと関係があると考えられる。

3 実習園選択の範囲について

- ・保育科では7割近くが、初等教育科では8割近くが適当と答えており、この実習園を選ぶ

基準が概ね妥当だったと理解されていることがわかる。

- ・しかし、ここでも保育科では3割近く、初等教育科でも13%が適切でなかったと答えていることは、改めて考慮されるべきである。特に、保育科の学生の指摘は適切に受けとめられる必要がある。
- ・不適当とする理由は主に次の3点である。
 - ①希望する園、就職したい園、興味のある園、評判のよい園を自分で選択できない。
 - ②徒歩や自転車で通勤可能な範囲に園がない、自動車でも遠い。
 - ③雨や荷物の多い日は大変なので自動車やバイク通勤も考慮してほしい。

まず、②については、徒歩・自転車で通勤可能な園がなかったり、また通えてもかなり時間がかかるというのは当然の指摘である。現状としても、徒歩・自転車で通勤不可能な場合は実習園の許可を得て自動車などでの通勤を認めている。問題は、通えるがかなり遠距離になり、自転車での通勤でも時間がかかる場合である。

本学が「徒歩または自転車で通勤可能」としている理由は次の5点である。

- (1)肉体的・精神的にも緊張と疲労を伴う実習では、通いやすいところが学生にとって適切である。
- (2)実習期間が早朝から夜遅くなる場合がしばしばある。
- (3)自動車での通勤は事故を起こしやすく、しかもそれが大きな事故になりやすく実習継続を不可能にする可能性が高い。現にそうした事故の例がみられる。
- (4)駐車場がないなど園に物理的に困難をもたらし、また事故の場合は園にも多くの負担をかけかねない。
- (5)一つの実習園に多数の学生が集中する場合があります、実習園に負担をかけると同時に実習園決定が円滑に進まない状況が起こる。

こうした点を考慮しつつ、自転車でも通勤不可能ではないがかなりの困難がある場合、実状を把握して、個別的に検討される必要がある。

次に①について、希望する園を選べないことについては、理想的には、通勤が容易でしかも希望する園で実習できることが望ましいが、上記の理由から「希望する園」を実習園選択の第1の基準にすることはできない。しかし、学生自身の強い希望は充分考慮されるべきであろう。やはり高い意欲をもって取り組み充実した実習を行なっていくためにも、その希望は尊重されなければならない。したがって、原則は変えないながら、「特段の理由があった場合」という視点を設け、申し出る個々の学生の状況を見極め、ある程度柔軟な実習園配当も求められよう。

以上3については、原則は変えないが、必要な場合は個々の実状を吟味のうえで個別的な配慮を行なっていく必要があることがわかった。

4 実習園の受け入れについて

- ・両学科とも8割から9割の学生が第1志望園に決定しており、特に初等教育科は第3志望園は0であった。

この点から、本学の実習園の選択の基準、及び実習先の本学学生に対する受け入れ状況

がたいへん良好だといえる。

5 学生による実習の依頼時期について

- 本学では、1年次の夏季休業期間中に学生本人による実習依頼を行なうことになっている。この7～8月の間に依頼に行った学生は保育科で計56.1%，初等教育科で85.3%となっている。保育科でかなり低い割合になっているが、同時に「無効」「無回答・忘れた」が計37.6%にのぼっており、予想される実態とはかけ離れている。より正確な実態把握がまず必要である。

6 事前打ち合わせについて

- 本学では、2年次に行なう保育科には2年次4月から6月初旬の実習までにできるかぎり2回実習園での事前指導を受けるように、1年次2月に行なう初等教育科では必ず1回はそうした事前指導を受けるように指導している。保育科では1回目を4月中に行なったのが22%，5月中に行なったのが65.3%であり、計87.3%になる。大部分の学生が少なくとも1回は実習園での事前指導を受けていることがわかる。しかし、2/3以上が5月に行っており、2回の事前指導を受けうる余裕のない時期に行っていることは指導上検討されなければならない。

初等教育科では約68%の学生が事前指導に園を訪問しているが、総じて両学科とも「無回答・忘れた」という割合が多い。さらに正確な実態を把握したうえで、実習園での事前指導について検討を進める必要がある。

7 通勤手段について

- 両学科とも自転車が過半数を超え、多くが自転車を通勤手段にしていることがわかる。また、徒歩と自転車を合わせれば保育科は7割以上、初等教育科は8割以上になる。これは、本学の指導が学生に理解され、実行されていることを示している。
- しかし、両学科とも10%以上の学生がバイク、自動車を使用している。この点については、さらに詳しく実態が明らかにされる必要がある。

8 実習の達成感について

- 「できた」保育科30.7%，初等教育科32.4%，「できなかった」保育科58.6%，初等教育科54.4%，つまり、約3割が「できた」と答えているものの、約6割弱が「できなかった」と答えているのである。

この数字をどのように評価するかは判断が難しいところだが、ともに幼稚園実習が初めてということを考慮すれば、実習に対して誠実に取り組んだ表れとみてよからう。

- 「思い通りにできた」理由として次のような点が指摘されている。

保育科

- ①子どもたちと十分な関わりがもてともに楽しく遊べた、喜んでもらえた。
- ②先生方から優しく指導を受けたくさん学び取ることができた、疑問がすぐ解決できた。
- ③のびのびできた、思っていたことが自由にできた。

初等教育科

- ①子どもたちと十分な関わりがもてともに楽しく遊べた、喜んでもらえた。
- ②研究保育も自分なりによくやれた、子どもが喜んでくれた。
- ③実習を終えて良かったと思えた、充実感があった。

両学科とも子どもたちとの充実した関わりをもてたことが挙げられていることは注目される。実習の充実感、満足感を支えるのは、何よりも子どもたちと十分なコミュニケーションが取れ、楽しく遊べたなどの関わりの充実度なのであり、実習以前からこうした関わりの力量を育てることが特に求められよう。

また、指導教員との関係も大きく影響することがわかる。指導教員からていねいな保育指導を受け、そうした指導やさらに人格面からも多くのことを学ぶことが実習の充実感を増すのである。この点では、受け入れ園に実習や実習生に対する理解をより深くしていただくとともに、指導していただく教員に対する実習生としての接し方についての指導助言をさらに懇切にしていくことが求められよう。

さらに研究保育の成否も実習の充実感や達成感に少なからぬ影響を与えていることがわかる。研究保育は実習の最後の仕上げという性格をもち、それまでの子どもたちとの関わり、自らの保育に対する姿勢、研究保育の計画と準備の進展具合など、総合的な力が表われる。この点では、実習前から保育計画などの基礎的な知識をさらに身につけさせるとともに、実習園では特に取り組みの真摯さが注目されているようであることを考慮して、保育に対する積極的な姿勢を培っていくことが求められる。

- ・「思い通りにできなかった」理由として多かったのは以下の項目であった。

保育科

- ①研究保育がうまくいかなかった。
- ②専門的知識・技術が不足だった。
- ③事前学習が不足だった。

初等教育科

- ①事前学習が不足だった。
- ②専門的知識・技術が不足だった。
- ③先生方と十分なコミュニケーションが取れなかった。

研究保育の成否が実習生にとって大きな意味をもつことは先に指摘した通りである。ここで注目したいのは「専門的知識・技術が不足だった」「事前学習が不足だった」ということがたいへん高い割合になっていることである。ところで、たとえばこのような研究の先行的事例として郡山女子大学短期大学部の「福島県における保育所実習に関する調査研究（１）（２）」（柴原宜幸 今泉礼右 関口はつ江 鈴木祥子 日本保育学会第48回大会発表 1995年5月）がある。そこでも、学生の「期待通りに実習ができなかった」の上位の理由として「事前学習不足」「専門技術不足」「専門知識不足」が挙げられている。しかも、「目的意識・意欲が十分でなかった」という理由はたいへん少ない割合になっている。この調査研究のアンケートでは実習園に対しても調査を依頼し、実習現場側として期待通り実習ができない理由として指摘している第1、第2の点が「実習意欲欠如」「目的意識

欠如」であることを明らかにしている。本学でも、同様のことが予想される。このことから、実習が思い通りにできない理由について、先行研究と同じように学生と現場とのかなりのずれが確認されるのではないかと考えられる。指導にあたって、「目的意識・意欲」よりもより学生の意識状況にあわせ、事前指導を充実させることが求められてくるのではないだろうか。「専門的知識・技術が不足だった」「事前学習が不足だった」がどのような内容として意識されているかは、この段階では把握できていないが、保育所実習アンケートでさらに細かく調査したので参照されたい。

B 保育所実習

1 実習願の提出時期について

- 本学では、保育実習Ⅰ（保育所実習）は1年次の2月に行なわれ、実習願は6月上旬に提出することになっている。
- 適当が約7割、不適当が1/4となっており、保育科の幼稚園実習願の提出時期についての結果と同様な割合になっている。また、不適当であった理由も同じような点が指摘されている。ここでみておかなければいけないのは、2年次6月に実施される幼稚園教育実習の願の提出時期が「早すぎる」と指摘した学生の割合と同じになっていることである。つまり、1年次2月の実習も、2年次6月の実習であっても、どちらにおいても6月上旬は早すぎて不適当と考えている学生が1/4存在するのである。したがって、先に幼稚園教育実習願の提出時期に関して保育科と初等教育科の学生の「適当であった」「適当でなかった」の割合が異なるのは、両学科の実習時期が異なることが一つの要因になっていると指摘したが、その考察は適切でなかったことがわかる。保育科の学生にとって何よりも幼稚園や保育所について理解を深め、考える時間が必要なのである。したがって、願の提出時期の検討、特に幼稚園、保育所についての情報提供の改善が強く求められる。

2 実習園決定の視点について

- 保育所の実習園を決定する際の視点も、幼稚園実習と同様に8割以上の学生が「自宅から最も近い」を挙げ、次いで「出身園」になっている。したがって、保育所実習園選択にあっても、本学の基準が概ね受け入れられていることがわかる。

3 実習園選択の範囲について

- この項目について適当が6割で、不適当が3割以上になっている。保育科の幼稚園実習についての結果に比べて適当が数%減り、不適当が数%増えている。
- 不適当の理由としては主に次の2点が挙げられていた。
 - ①行きたい園があっても遠ければ行けない、行ってみたい園で実習する方が頑張れる。
 - ②就職したいところ、興味あるところなど自由に選べた方がよい。

宮崎県においては、幼稚園よりも保育所の数の方が圧倒的に多く、近距離に保育所がある場合が多い。それに関わらず不適当が幼稚園よりも多いということは、希望する園に行きたいという学生がより多いということを意味する。保育科の場合は、幼稚園よりも保

育所に就職を希望する学生が多い。そのような事情から不適當がより多くなっていると考えられる。

これについても、幼稚園実習の結果で指摘したように、基準を変えることは困難だが、改めて個々の学生から出される強い希望や状況を考慮していくことが求められる。

4 実習園の受け入れについて

- ・第1志望が93%以上になり、ほぼ全学生が志望通りの園に受け入れていただいております、実習園の本学実習への理解の深さがうかがえる。

5 学生による実習の依頼時期について

- ・本学が指導している1年次の7～8月に約5割の学生が実習依頼に行っている。9～10月に依頼した学生が約8%であり、残りは「無効・無回答」になっていることを考慮すれば、実習依頼について失念する学生が多く、このことについて十分な自覚が促されていないことは問題点として指摘できる。概ね7～8月に依頼を行なっていると考えられるが、幼稚園実習と同様により正確な実態の把握が求められる。

6 事前打ち合わせについて

- ・事前打ち合わせは、保育実習Ⅰでは「行った」「来なくてよいと言われた」が合わせて98.8%、保育実習Ⅱでは96.4%にのぼる。保育実習Ⅱで数名の学生が「行かなかった」と答えている他は、事前打ち合わせはほぼ完全に行なわれていたことがわかる。

7 通勤手段について

- ・実習園への通勤手段も、幼稚園実習と同様に5割以上が「自転車」で、「徒歩」と合わせれば7割以上になる。保育所でみれば、その割合も数%上がっている。また、「バイク」「自動車」も、幼稚園実習に比べて若干減っているものの1割を数える。「父母などによる送迎」も含めて、それらについてはより実態を見極め、検討することが求められる。

8 実習の達成感について

- ・表によれば、保育実習Ⅰでみれば「思い通りにできた」が計24.3%、「できなかった」が59.3%になる。これは、幼稚園実習で約3割の学生が「できた」、約6割の学生が「できなかった」と答えているのと同通する。しかし、保育実習Ⅱをみると「思い通りにできた」が計61.7%、「できなかった」が21.9%になる。しかも、「ⅠはできなかったがⅡはできた」という学生が40%を超えていることは注目にあたいする。これは、保育科の学生は1年次2月の保育所実習や2年次の幼稚園実習ではまだ6割の学生が「思い通りにできなかった」と考えているにも関わらず、それらの実習経験を踏まえた2年次11月の保育所実習では、逆に6割の学生が「思い通りにできた」と考えていることを示している。保育実習Ⅱで割合が逆転するのである。このことは、本学があえて保育実習Ⅱを必修にしていることの意義を改めて確認させるものとなっている。保育実習Ⅱが原則として保育実習Ⅰと同一園に

しており、学生自身が実習園に慣れていることも加味しなければならないが、保育実習Ⅱを必修にすることによって、過半数の学生が「思い通りに実習ができた」という自信をもって卒業していく意味は大きい。

- 実習が「思い通りにできた」理由として顕著なのは以下の諸点である。

- ①子どもたちと十分な関わりがもて楽しく遊べた、言葉かけもできた。
- ②余裕がもて積極的に子どもたちと関われた、遊びを紹介できた。
- ③先生から優しく指導を受け自由にさせてもらえた、任された。
- ④園の方針や生活の流れ、子どもたちの状態が分かっていた
- ⑤研究保育がうまくできた、楽しくできた。
- ⑥子どもたちとじかに関わり子どもたちの立場で考えられた、学校では知ることができないことを教わった。

①の子どもたちとの関わり、③指導の先生との関係、⑤の研究保育のそれぞれの面が挙げられているのは、幼稚園実習と同様である。しかし、さらに②や④のように「余裕をもて積極的に子どもたちと関われた、遊びを紹介できた」「園の方針や生活の流れ、子どもたちの状態が分かっていた」という理由が挙げられていた。しかもその理由を挙げたほとんどが、保育実習Ⅰでは思い通りにできず、Ⅱでは「できた」と答えた学生であった。このことは、上に記したように保育実習Ⅱでは、実習園に慣れたことと同時に実習を積み重ねた経験が実習の自己評価を高めていることを示している。それによって、⑥にあるように、単に子どもたちと十分に関わられるだけでなく、子どもの目の高さに立つなど、子どもたちの立場に立って保育できたことへの評価へとつながり、学生自身の保育力量の一定の向上がうかがえるのである。

- できなかったと思う理由は、その「できなかった」と答えた学生すべてをまとめると、①「専門的知識・技術が不足だった」40%、②「事前学習が不足だった」34%、③「研究保育がうまくいかなかった」29%になっている。「目的意識・意欲が十分でなかった」「子ども達との十分な関わり方が持てなかった」はそれぞれ20%ぐらいになっている。

上記の3点が特に高い割合になっており、「目的意識・意欲が十分でなかった」などが相対的に低くなっているのは、幼稚園実習と共通する。改めて、実習以前の事前学習や専門的知識・技術の習得を強化する必要が認められる。

- ただし、この保育実習のアンケート調査では、幼稚園実習の調査では事前学習や専門的知識・技術の不足の内容が不明確だったため、さらにそれらについて立ち入って具体的に記述する項目を設けた。

この「事前学習が不足だった」あるいは「専門的知識・技術が不足だった」ことの具体的な理由についての自由記述でもっとも多かったのが、「子どもたちへの言葉かけや援助の仕方、環境設定などわからず戸惑った」ということだった。この点は、必ずしも事前学習や専門的知識・技術の習得に関わる事項とはいえない。それはむしろ、実習の過程でこそ体験を通して学習していく面であるといえよう。しかし、学生にとって子どもとの関わりが上記のように「思い通りにできた」と考える重要な点として意識されている以上、こうした子どもとの具体的な関わり方についての事前学習が工夫される必要があろう。

このこととも関連して、その他事前学習、専門的知識・技術として学生に意識されていたものは、たいへん具体的な方法・技術であった。たとえば、歌・手遊び、子どもの引きつけ方・導入の仕方、紙芝居や絵本の読み聞かせ、ピアノ、未満児に対する援助、病気や応急手当、日誌・日案等々の書き方などが挙げられている。実習に直面して、こうした実際的な方法・技術の不足を感じているのである。これらについては、1年次からの授業や実習前指導などに取り入れられているが、学生にこうした授業の中で具体的な方法・技術をより自覚的、自主的に学習するように方向づける必要がある。しかし同時に、学生自身にとって不足する「専門的知識・技術」とは、このようにたいへん具体的な内容であることを踏まえて、教育内容を吟味することも求められよう。いうまでもなく、保育に関する基本的な知識の習得や保育を究めようとする探求心を育てることをおろそかにできないことは確かである。したがって、こうした諸点と具体的な保育の方法・技術の両面を備えた保育者養成がますます必要になってきていることがわかる。

C 実習手続上の問題と実習の達成感との関わりについて

- ・アンケート項目1「実習願の提出時期」および2「実習園決定の視点」において「適当でなかった」と回答した学生、4「実習園の受け入れ」において第1志望に受け入れられなかったと回答した学生、すなわち、不満を持って実習園決定の手続きを行なったと考えられる学生、学生自身が希望する園を実習園として決定されなかったのではないかと考えられる学生について、そのことが学生の実習そのもの、ひいては実習内容に対する自己評価に悪い影響を与えていないかと危惧された。しかし、それぞれ8「実習の達成感」との関連での集計結果をみると、必ずしも「適当でなかった」「第2志望」「第3志望」と回答した学生が「思い通りにできなかった」と回答している割合は高くない。(表A1 - a～c, A2 - a～c, B - a～c 参照)

このことは、実習園決定に至る手続きと実際の実習内容そのものについて、学生は明確に区別して評価していることによる。学生は手続き上の不満がどうあれ、実習内容に満足であれば実習をプラス評価するのである。

何よりも実習内容の評価は、その具体的な記述にも表れているように、教育者・保育者をめざす者としてどのような体験をして、実習からどのようなことを学んだかによっている。

これら全体の結果から、前述したように手続き上の諸課題をさらに検討し改善を加えていく必要が明らかになった。同時に、特に重要なのは、実習指導の力点は実習内容の充実に向けて置かれていかなければならないということが明確に示されたことだった。

VI. まとめ（今後の課題）

教育実習・保育実習指導の大学としての自己評価の一環として、実習園決定に関わる手続き・基準および実習指導の内容・方法の改善をはかるため、学生に対してアンケート調査を実施したところ以下の課題が明らかになった。

- ・実習願の提出時期の検討。

- ・幼稚園・保育所についての情報提供の改善。
- ・実習園選択の原則的基準は変えないながら、個々の実状を吟味した個別的な配慮が必要。
- ・実習園の指導担当者への接し方についての一層の指導助言。
- ・子どもとの具体的な関わり方についての事前学習の工夫。
- ・学生自身が不足と意識する具体的内容を踏まえた教育内容の吟味。

さらに、学生の具体的記述から以下のことが再確認された。

- ・保育実習Ⅱ必修の意味。
- ・実習指導改善の最重点は実習内容の充実。

今後は、実習手続上の諸課題に関わる詳細な現状把握を進めるとともに、実習現場側に対してもアンケート調査を依頼するなど、実習指導のさらなる充実に向けて調査研究を継続していきたい。

参考文献

森敏昭 吉田寿夫編著 「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」 北大路書房 1990

〔1995年12月10日受理〕